

## 委員からの事前ご意見

## ① 障害者がいることを把握するシステムについて

視覚障害の人間は、駅では「ピンポ〜ン」と鳴っているところにいけば改札があり、駅員さんがいると認識しているが、地方だとそういった音がなかったり、無人だったり、駅員さんがいても次の列車までの間隔があるとどこか別のところで別の仕事をしていたりという状況。都会でも広い駅だとその音が聞こえなかったりするし、誘導ブロックがあっても外と改札がそれぞれどっちなのかわからなかったりする。

そこで、これだけ情報通信技術、GPS などが発達してきているので、何か携帯端末か何かを持っている障害者が駅に来て、手助けをして欲しいというメッセージを出したときに、駅員さんの側で駅の中のこの場所に視覚障害者がいるというのが把握できるようなシステムを作って欲しい。

タクシーを呼びたいのに自分の場所がわからないときもあり、こういうときにも自分の場所を発信できるシステムが欲しいと思っている。もちろん、プライバシーの問題もあり、すぐには難しいかもしれないが、実験的な取り組みを進めていって欲しい。

## ② バリアフリー対応施設・乗り物に関する継続的な見直しについて

前回の会議でも話したが、視覚障害者として使いやすかった施設が別の工事の際に撤去されそのままになっている事例がある。券売機も昔のものは手探りで操作できるように後付けで点字を張ってもらっていたりしたのだが、入れ替えられてタッチパネルとなり操作できなくなった。施設も券売機も一般の方に使いやすいように、より高機能なように改善した結果であり、それは大事なことだと思うが、それが障害者にとってはどうなのかというのをあわせてチェックするように国が強く推奨してほしい。もちろん悪気があってそうなっているわけではなく、運用してみてもはじめてわかったことだとは思っているので、途中でもできるところから計画を見直すなどの改善をして欲しい。

## ③ 駅員さんなど交通事業者職員の意識レベルの向上について

東京の鉄道などで大きな会社の職員さんは障害者に対する意識が高いと感じているが、特に地方や小さい会社の職員さんはそういった意識が低いという現状がある。都会ではもちろん数をこなした結果そうなっているという面もあり、誰が悪いという話ではないのだが、そういった地方や小さい会社の職員さんを啓発するための研修を組むなどして欲しい。いたずらにコストを負担していただくのは障害者側も本意ではないので、インターネットを介すなどしてなるべく安い方法で、これはぜひ行政が取り組んで欲しい。

## ④ 施設整備のための検討会議への障害者の参画について

行政などの担当者がバリアフリーに関する取り組みを一生懸命やってくれたのに、障害者のニーズに合致せず、結果として喜ばれないものができてしまうことがある。良かれと思ってやったことに対して後から文句を言われ、その担当者が見ていてかわいそうになる例がある。せっかくやっていただけなのであれば、事前に検討会議などに混ぜていただき、概要だけでなく細かいところ一つ一つまで意見まで聞いてもらえればお互いに良かったのではと思うため、「会議にはそういう当事者を入れ細かいところまで意見を聞くように」という指導を国の方でもしてもらえると良いと思う。